

第3回学校運営協議会

時：令和7年1月24日

於：会議室

司会：内池教頭 書記：平松

【構成メンバー出欠：（協議会委員）】

山田 亨、本房 達哉、砂川 隆司、村上 徹、田中 弘江、田井中 直美＝出席6名

【構成メンバー出欠：事務局（学校側）】

宮内 順（校長）、内池 憲治（教頭）、榊山 幸晴（事務長）、丸岡 大輔（首席）、
宮前 侑介（首席・進路指導主事）、冢瀬 克徳（教務主任）、松下 真二（生徒指導主事）、
小池 浩司（保健指導主事）、平松 陸（書記）＝出席9名

1 校長挨拶

2 会長挨拶

3 協議事項（司会：会長）（委：協議会委員 事：事務局）

1)令和6年度学校評価（案）について（別紙参照）

家庭学習への取組みの数値が低い原因はなにか。（委）

質問の仕方についての生徒の認識に違いがあった。次回は自学自習（塾等を含む）はどれくらい
なのか。等の文言に変える。（事）

1年生において、家庭学習をしているかの質問に肯定率が50％は高い傾向だと考える。（委）

進路実現のための学習支援の数値は高い。しかし進路選択のための情報提供は指標に対して低
いのももう少し分析が必要ではないか。（委）

なぜ指標に達成しなかったのかわかるように学校教育自己診断の結果への生徒の自由記述を載
せてもよいのではないか。（委）

悩みを相談できる先生がいることに対して高数値である。（委）

「開かれた学校作り 地域等との連携 イ」を箇条書きにしては。（委）

救急救命講習等の社会上で必要な知識を習得するためしていることはあるのか。（委）

10年前から保健・体育の授業の中で実施しており、教職員には年1回救急救命講習を実施して
いる。（事）

2)令和7年度学校経営計画（案）について（別紙参照）

制服、食堂等の生徒が関心の高い点は過程と結果を広報してみてもどうか。（委）

制服においては、教職員と生徒会メンバーを中心に勉強会を行い、勉強会を行った。（事）

さくら連絡網等で連絡は来るが、保護者がどのように学校と関わっていくのかを示す具体的な内容と指標がほしい。（委）

一人ひとりのニーズに応じた支援の具体性がほしい。（委）

生徒の学習への取組み R9 70%でいいのでは（委）

アドミッション・ポリシー・スクールポリシーの内容に関しては協議会で確認したい。（委）

3)学校教育自己診断について

生徒について

1年生においてスタディサポート GTZ の D ゾーンの生徒が増加しているため教員側が授業の工夫をし、底上げを図っていきたい。（事）

保護者について

特に大きな変化はない。現状維持ではなく低い数値をいかに高くするか改善策を考える必要がある。（事）

教員について

今年度から1年生が Classi を活用し、google form で質問箱を作り、教員の授業公開週間を設定し、教員と生徒ともに緊張感を持って授業を実施できた。（事）

4)進路状況について（別紙参照）

奈良県のトップ層の学校が近畿大学に出願する傾向にあったため、今年度の近畿大学の合格者数が減少した。

指定校推薦の生徒は第一志望の大学へ決定した。

共通テスト受験者数は3年全体の33%（昨年度45%）で減少傾向にある。

4 その他

5 校長謝辞